

令和 8 年度 第 1 回 川西市地域公共交通会議

次第

日時 令和 8 年 7 月 10 日（金）

午後 2 時 00 分～

場所 アステ市民プラザ ホール 1

1. 開会

・ 新任委員の紹介

大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 交通・地域計画学領域
准教授 葉 健人 様

2. 議事

（1）会長、副会長の選任について

（2）川西市公共交通計画の令和 7 年度実績の評価について 【協議】（資料 1-1, 1-2）

（3）川西市公共交通計画の進捗状況について 【報告】（資料 2）

①地域の移動課題対策支援事業

②公共交通維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置

③公共交通利用者増に向けた取組の実施

④地域住民による訪問型支えあい活動に対する支援

（4）地域の移動課題対策支援事業（牧の台地域）について【報告】（資料 3）

（5）ポスター募集について【報告】（資料 4）

3. その他

4. 閉会

令和8年度 第1回 川西市地域公共交通会議 出席者名簿

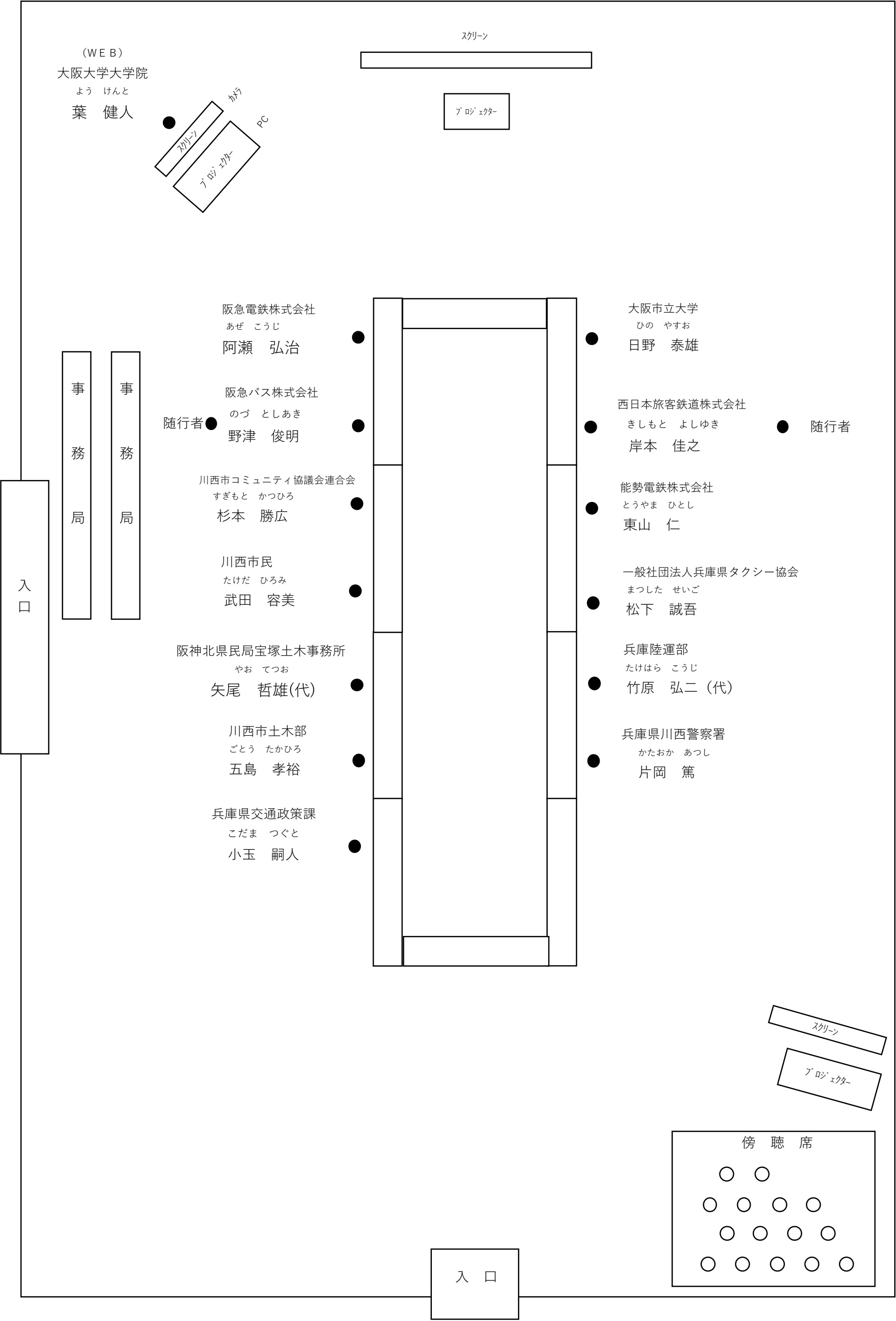
委員

構成団体	所属	役職	構成員		出席者
大阪市立大学		名誉教授	日野 泰雄	ひの やすお	同左
大阪大学大学院	工学研究科 環境エネルギー工学専攻 共生環境デザイン学講座・共生都市計画学領域	教授	紀伊 雅敦	きい まさのぶ	欠席
大阪大学大学院	工学研究科 地球総合工学専攻 交通・地域計画学領域	准教授	葉 健人	よう けんと	同左(WEB)
西日本旅客鉄道株式会社	近畿統括本部 兵庫支社	課長	岸本 佳之	きしもと よしゆき	同左
阪急電鉄株式会社	都市交通事業本部 沿線まちづくり推進部	部長	阿瀬 弘治	あぜ こうじ	同左
能勢電鉄株式会社	鉄道事業部	副部長	東山 仁	とうやま ひとし	同左
阪急バス株式会社	自動車事業本部営業企画部(地域公共交通担当) 兼 新モビリティ推進部	部長	野津 俊明	のづ としあき	同左
公益社団法人 兵庫県バス協会		専務理事	新屋敷 昭一	しんやしき しょういち	欠席
一般社団法人 兵庫県タクシー協会 株式会社フクユ		代表取締役	松下 誠吾	まつした せいご	同左
兵庫県交通運輸産業労働組合協議会	阪神地域協議会	副執行委員長	石崎 宏司	いしざき こうじ	欠席
川西市コミュニティ協議会連合会			杉本 勝広	すぎもと かつひろ	同左
社会福祉法人 川西市社会福祉協議会		常務理事	作田 哲也	さくた てつや	欠席
川西市民		－	武田 容美	たけだ ひろみ	同左
国土交通省	神戸運輸監理部 兵庫陸運部 輸送部門	首席運輸企画専門官	栞原 岳志	くわばら たけし	竹原 弘二
兵庫県	阪神北県民局 宝塚土木事務所	所長	志茂 大輔	しも だいすけ	矢尾 哲雄
兵庫県川西警察署	交通課	課長	片岡 篤	かたおか あつし	同左
川西市	企画財政部	部長	阪上 哲生	さかうえ てつお	欠席
川西市	土木部	部長	五島 孝裕	ごとう たかひろ	同左

オブザーバー

兵庫県	兵庫県土木部 交通政策課	副課長 兼 地域交通班長	小玉 嗣人	こだま つぐと	同左
-----	-----------------	--------------	-------	---------	----

令和 8 年度 第 1 回 川西市地域公共交通会議 配席図



＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

川西市公共交通計画の評価等結果（令和7年4月～令和8年3月）

目標			目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
基本方針1	【R13年度】 市民それぞれのニーズにあった公共交通を便利に使うことができる	各公共交通の利便性に満足している市民の割合 【基準値（R4）】 JR：71.9％ 阪急電鉄：80.2％ 能勢電鉄：72.2％ 阪急バス：53.6％ タクシー：35.7％ 【R9目標値】 JR：76.0％ 阪急電鉄：80.2％ 能勢電鉄：73.5％ 阪急バス：56.0％ タクシー：38.0％ 【R13目標値】 JR：80.0％ 阪急電鉄：80.2％ 能勢電鉄：75.0％ 阪急バス：60.0％ タクシー：40.0％	・地域の移動課題対策支援事業 ・モビリティ・マネジメント（MM）の充実 ・安全対策の推進 ・公共交通維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置 ・渋滞・違法駐車対策の推進 ・タクシーの利便性向上に向けた検討 ・ユニバーサルデザインタクシーの導入 ・隣接自治体との連携推進	市民交通行動調査	—	—	市民交通行動調査をR9年度に実施予定のため評価しない
		自家用車よりも公共交通を利用することが多い市民の割合 【基準値（R4）】 45.1％ 【R9目標値】 52.5％ 【R13目標値】 60.0％		市民実感調査	【達成状況】 48.5％(R5)（参考） 46.9％(R6) 50.4％(R7) 【分析】 20代～50代の比較的若い世代で自家用車よりも公共交通を利用することが多いという割合がR6年度に比べて上昇した。	MMや利用促進活動を継続して行っているため、自家用車よりも公共交通を利用することが多い市民の割合は増加した。目標達成に向けて継続的にMMや利用促進活動に取り組み、より一層効果的な取組を検討していく。	
	【R9年度】 自分たちのまちの移動手段として公共交通をとらえられる意識の醸成	公共交通を利用している・利用すると答えた市民の割合 【基準値（R4）】 62.4％ 【R9目標値】 65.0％ 【R13目標値】 65.0％	・地域の移動課題対策支援事業 ・モビリティ・マネジメント（MM）の充実	市民交通行動調査	—	—	市民交通行動調査をR9年度に実施予定のため評価しない
	【R9年度】 市民生活を支えるための公共交通サービスの維持・向上	阪急川西能勢口駅の通勤・通学ラッシュ時間帯の平均運行本数（平日） 【基準値（R4）】 15本/時間 【R9目標値】 15本/時間 【R13目標値】 15本/時間	・地域の移動課題対策支援事業 ・モビリティ・マネジメント（MM）の充実 ・安全対策の推進 ・公共交通維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置 ・渋滞・違法駐車対策の推進 ・タクシーの利便性向上に向けた検討 ・ユニバーサルデザインタクシーの導入 ・隣接自治体との連携推進	交通事業者提供資料	【達成状況】 15本/時間（R5）（参考） 15本/時間（R6） 15本/時間（R7） 【分析】 乗降者数が維持されているので、運行本数も基準値のまま推移した。	目標達成に向けて運行本数が維持されているが、人口構造の変化や働き方の多様化などの影響に対応できるよう、引き続き、MMや利用促進に取り組んでいく。	
		JR川西池田駅の通勤・通学ラッシュ時間帯の平均運行本数（平日） 【基準値（R4）】 13本/時間 【R9目標値】 13本/時間 【R13目標値】 13本/時間		交通事業者提供資料	【達成状況】 13本/時間（R5）（参考） 14本/時間（R6） 14本/時間（R7） 【分析】 特急「こうのとりのり」が新たに川西池田駅に停車することになったため増加した。		
		能勢電鉄の通勤・通学ラッシュ時間帯の平均運行本数（平日） 【基準値（R4）】 10本/時間 【R9目標値】 10本/時間 【R13目標値】 10本/時間		交通事業者提供資料	【達成状況】 10本/時間（R5）（参考） 10本/時間（R6） 10本/時間（R7） 【分析】 乗降者数が維持されているので、運行本数も基準値のまま推移した。		
		阪急バスにおける1日の往復本数が5本以上の割合（平日） 【基準値（R4）】 60.5％ 【R9目標値】 60.5％ 【R13目標値】 60.5％		交通事業者提供資料	【達成状況】 61.1％(R5)（参考） 52.6％(R6) 54.1％(R7) 【分析】 ダイヤ変更や系統の再編等の影響により増加した。	ダイヤ変更や系統の再編により、1日の往復本数が5本以上の割合（平日）は増加したが、利用者の減少や運転士不足による減便・廃便の影響で運行本数自体は減少が続いている。 MMや利用促進活動に継続して取り組みつつ、事業者連絡会を活用して運転士確保や利用者増加に繋がる効果的な施策を検討していく。	

目標			目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
基本方針2	【R13年度】 市民が公共交通に慣れ親しみ、何気なく出かけるようになる	川西能勢口駅、JR川西池田駅の1日当たりの利用者数 【基準値（R4）】 阪急電鉄＋能勢電鉄：74,243人 JR：33,596人 【R9目標値】 阪急電鉄＋能勢電鉄：80,978人 JR：35,271人 【R13目標値】 阪急電鉄＋能勢電鉄：80,978人 JR：35,271人		交通事業者提供資料	【達成状況】 阪急電鉄＋能勢電鉄：79,033人(R5) (参考) 76,995人(R6) 77,794人(R7) JR：34,602人(R5) (参考) 35,374人(R6) 36,656人(R7) 【分析】 阪急電鉄＋能勢電鉄は、R6年度は前年に比べて減少したが、R7年度は前年度に比べて増加した。 沿線に住宅地やマンションが開発されたことで現役世代が居住し通勤利用者が増えたことが想定される。 (R5年度は妙見の森事業の営業終了に伴い一時的に利用者が増加していた) JRは、R6年度に比べて増加した。大阪・関西万博が開催されたことが要因の1つであると考えられる。	目標の達成に向けて順調な推移のため、継続してMMや利用促進活動に取り組んで行く。	
		山下駅、畦野駅、多田駅、鼓滝駅の1日当たり利用者数 【基準値（R4）】 山下駅：5,555人 畦野駅：7,019人 多田駅：6,157人 鼓滝駅：4,867人 【R9目標値】 山下駅：5,827人 畦野駅：7,019人 多田駅：6,544人 鼓滝駅：4,872人 【R13目標値】 山下駅：5,827人 畦野駅：7,019人 多田駅：6,544人 鼓滝駅：4,872人	・地域の移動課題対策支援事業 ・モビリティ・マネジメント（MM）の充実 ・公共交通利用者増に向けた取組の実施 ・福祉施設・コミュニティ等と連携した情報発信 ・公共交通維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置 ・渋滞・違法駐車対策の推進 ・隣接自治体との連携推進 ・EVバスの導入等の推進	交通事業者提供資料	【達成状況】 山下駅：5,678人(R5) (参考) 5,582人(R6) 5,765人(R7) 畦野駅：7,061人(R5) (参考) 6,698人(R6) 6,751人(R7) 多田駅：6,437人(R5) (参考) 6,232人(R6) 6,441人(R7) 鼓滝駅：4,943人(R5) (参考) 5,055人(R6) 4,874人(R7) 【分析】 山下駅、畦野駅の増加は、駅周辺に住宅地が開発されたこと、多田駅の増加は、駅周辺にマンションが開発されたことで、現役世代が居住し通勤利用者が増えたことが想定される。		
	【R13年度】 市民が自家用車に過度に依存せず、地球環境にやさしい移動手段を選択できる	温室効果ガス排出量の削減率（H25年度比） 【基準値（R4）】 31.0% 【R9目標値】 43.0% 【R13目標値】 50.0%		環境政策課提供資料	【達成状況】 32.0%(R5) (参考) 25.0%(R6) 【分析】 —	—	R7の数値は秋頃に判明予定のため、今回は評価しない
	【R9年度】 公共交通を使った外出機会の促進	能勢電鉄の1日当たり利用者数 【基準値（R4）】 87,950人/日 【R9目標値】 91,967人/日 【R13目標値】 91,967人/日	・地域の移動課題対策支援事業 ・モビリティ・マネジメント（MM）の充実 ・公共交通利用者増に向けた取組の実施 ・福祉施設・コミュニティ等と連携した情報発信 ・公共交通維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置	交通事業者提供資料	【達成状況】 91,074人/日(R5) (参考) 88,528人/日(R6) 88,056人/日(R7) 【分析】 駅ごとに分析すると網延橋駅・滝山駅・多田駅・畦野駅、山下駅では増加した。住宅地やマンションの開発により現役世代が居住し通勤利用者が増えたことが想定される。	R7年度は基準日と比較すると増加はしているが、前年に比べると減少したため、今後も目標達成に向けてMMや利用促進活動に継続して取り組んでいく。	
		阪急バスの1日当たり利用者数 【基準値（R4）】 41,753人/日 【R9目標値】 45,597人/日 【R13目標値】 45,597人/日	・渋滞・違法駐車対策の推進 ・隣接自治体との連携推進	交通事業者提供資料	【達成状況】 41,784人/日(R5) (参考) 41,638人/日(R6) 38,879人/日(R7) 【分析】 川西猪名川線や日生ニュータウン線などの系統再編等の影響により、利用者数の減少が続いている。		減便や廃便等の影響で利用者数の増加が厳しい状況である。継続してMMや利用促進活動に取り組んでいく。
	【R9年度】 公共交通の脱炭素化	市内を運行するEVバス等低公害車の総台数 【基準値（R4）】 0台 【R9目標値】 6台 【R13目標値】 10台	・EVバスの導入等の推進	交通事業者提供資料	【達成状況】 4台(R5) (参考) 4台(R6) 0台(R7) 【分析】 安全上の理由から現在運行をおこなっていないため、台数は減少した。	事業者の意向等を確認しつつ、脱炭素化に向けた取組を進める。	

目標			目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
基本方針3	【R13年度】 自家用車に依存しなくても、移動に困ることなく、誰もが安心して暮らせる	日常の移動に課題を感じている市民の割合 【基準値（R4）】 29.0% 【R9目標値】 27.0% 【R13目標値】 25.0%	・地域の移動課題対策支援事業 ・タクシーの利用環境向上に向けた検討 ・ユニバーサルデザインタクシーの導入 ・地域住民による訪問型支えあい活動に対する支援	市民交通行動調査	—	—	市民交通行動調査をR9年度に実施予定のため評価しない
	【R9年度】 交通空白地等への持続可能な移動手段の確保	交通空白地の居住人口 【基準値（R2）】 6,462人 【R9目標値】 5,748人 【R13目標値】 5,030人	・地域の移動課題対策支援事業 ・タクシーの利用環境向上に向けた検討 ・ユニバーサルデザインタクシーの導入	国勢調査の数値等	—	—	R7国勢調査の数値やメッシュ人口データ等を基にR9年度に評価予定
	【R9年度】 移動課題がある人の移動手段の確保	外出の際の移動を支援してほしい高齢者や要支援者の割合 【基準値（R4）】 5.9% 【R7目標値】 5.9% 【R13目標値】 5.9%	・地域の移動課題対策支援事業 ・タクシーの利用環境向上に向けた検討 ・ユニバーサルデザインタクシーの導入 ・地域住民による訪問型支えあい活動に対する支援	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	【達成状況】 7.2%（R7） 【分析】 令和7年度は、令和4年度と比較して割合が上昇している。要因としては、高齢化の進行により、外出支援を必要とする高齢者が増加していることが考えられる。 また、地域住民による訪問型支えあい活動を実施する団体は増加しており、地域での支援体制は徐々に広がっている。一方で、支援を必要とする高齢者の増加ペースも大きく、引き続き担い手の確保や活動の充実が必要である。	令和7年度は、3団体が新たに活動を立ち上げた。引き続き、活動団体の増加や活動の継続に取組んでいく。	
		タクシーの利便性に満足している市民の割合 【基準値（R4）】 35.7% 【R9目標値】 38.0% 【R13目標値】 40.0%		市民交通行動調査	—	—	市民交通行動調査をR9年度に実施予定のため評価しない

- （記載に当たっての留意事項）
- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
 - ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
 - ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
 - ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
 - ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

令和7年度 川西市公共交通計画の評価（施策の進捗状況）（令和8年3月末時点）

（○：実施 △：検討したが実施に至らず）

基本方針1 誰もが移動しやすい公共交通サービスの整備**地域の移動課題対策支援事業** （【基本方針2】【基本方針3】にも関連）

○

【実施内容】

・東谷地域

ボランティア輸送「乗りっこ」の運行開始へ技術的支援を実施。

・緑台・陽明地域

ボランティア輸送「お出かけ支援」の拡充に技術的支援を実施。

・牧の台地域

阪急バス平野山下線・大和団地線の持続可能な運行に向けて、地域協働交通検討部会を5回開催。

「大和バスの利用促進について」をテーマにしたワークショップを実施。

「持続可能な大和バスを実現するために」をテーマにした市長タウンミーティングを実施。

・北陵地域

支援対象地区として認定。

【今後の課題や取組内容】

<課題>

・公共交通の必要性について、地域の意識を醸成することが課題である。

・各地域の移動課題を明確にし、解決に向けて取組を進めることが課題である。

<取組>

・既に取り組を開始している東谷、緑台・陽明、牧の台地域は継続的に支援する。

・北陵地域については、部会を立ち上げ勉強会や住民アンケートなどを実施し、地域内の課題を明確にし、課題解決に向けた取組内容を検討し実施する。

・移動課題の解決を希望する新たな地域への支援を開始する。

モビリティ・マネジメント（MM）の充実 （【基本方針2】にも関連）

○

【実施内容】

・小学生向けMMを8回実施（「川西市とのせでん」、「交通すごろく」、「バスの乗り方〇×クイズ」など）。

・小学校の教員向けMMを1回実施（MMを受けた教員によるMM授業は6回実施された）。

・小学校1・2・3年生向け阪急バスの副教材を市内各小学校へ配布。

・市民課窓口で転入者に対し、阪急バスのノリセツを配布。

【今後の課題や取組内容】

<課題>

・子どもから高齢者までの全世代を対象としたモビリティ・マネジメントをいかにして広げていくかが課題である。

<取組>

・学校MM、教員MM、住民MMには継続して取り組む。

・各地域や学校教育等で自主的に取り組んでいただける方法を模索する。

安全対策の推進

○

【実施内容】

・能勢電鉄 平野駅～一の鳥居駅間で豪雨対策工事を実施（国・県・市補助あり）。 【今後の課題や取組内容】 <課題> ・基幹公共交通が安心・安全に運行できるよう計画的に対策を実施していくことが課題である。 <取組> ・引き続き、能勢電鉄(株)は主体的に減災対策に取り組み、市は財政支援を行う。	
公共交通の維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置（【基本方針2】にも関連）	○
【実施内容】 ・交通事業者の課題を把握し、解決に向けて協議を行った（合計2回開催）。 （主な課題）人員不足への対応、川西能勢口駅周辺の渋滞対策、二次元コード決済を活用した利用促進 【今後の課題や取組内容】 <課題> ・各交通事業者が抱える本質的な課題の共有やそれに対する具体的な解決策への取組が課題である。 <取組> ・継続して会議を開催し、鉄道、バス、タクシーの各交通事業者及び学識者と連携をとり課題解決を図る。	
渋滞・違法駐車対策の推進（【基本方針2】にも関連）	○
【実施内容】 ・兵庫県、警察と連携した街頭啓発活動を実施（月1回）。 ・違法駐車対策実証実験を実施（単管バリケードの設置、横断防止柵の設置）。 【今後の課題や取組内容】 <課題> ・実行性のある違法駐車対策を検討し、渋滞緩和による路線バスやタクシーの定時性を確保することが課題である。 <取組> ・引き続き、兵庫県、川西警察、市で構成する交通安全対策連絡会議で協議していく	
タクシーの利用環境向上に向けた検討（【基本方針3】にも関連）	△
【実施内容】 ・事業者連絡会において、配車アプリの使用方法の周知について課題を共有。 ・畦野駅のタクシー事業者撤退に伴う、利用環境向上に向けた検討を実施。 【今後の課題や取組内容】 <課題> ・畦野駅のタクシー乗り場の整備が課題である。 ・タクシーの利用環境を向上し、交通空白地・不便地の移動手段を確保することが課題である。 <取組> ・事業者連絡会を活用し、利用環境の向上に向けた取組を検討する。	
ユニバーサルデザインタクシーの導入（【基本方針3】にも関連）	△
【実施内容】 ・特になし。	

【今後の課題や取組内容】	
<課題> ・移動が困難な方の移動手段を確保することが課題である。	
<取組> ・事業者連絡会を活用し、ユニバーサルデザインタクシーの導入に向けた課題を整理する。	
隣接自治体との連携推進	（【基本方針2】にも関連）
○	
【実施内容】	
・能勢電鉄主催の「公共交通利用に関する連絡会」において、能勢電鉄・猪名川町・豊能町との情報交換や課題の共有等、連携推進を図ることができた。	
【今後の課題や取組内容】	
<課題> ・隣接自治体と公共交通の課題解決に向けた連携が課題である。	
<取組> ・市域をまたがる公共交通の持続可能な運行について、交通事業者を交えて連携を深めていく。	

基本方針2 環境にやさしくまちの賑わい向上につながる公共交通の利用環境の整備

公共交通利用者増に向けた取組の実施	○
【実施内容】	
・市内イベントに公共交通で来場された方に対して、帰り分の能勢電鉄と阪急バスの無料乗車券を配布。	
『清和源氏まつり』	
阪急バス：197 枚 能勢電鉄：256 枚	
『川西市交通安全フェア 2025』	
阪急バス：115 枚 能勢電鉄：64 枚	
・交通事業者において、利用者増に向けた取組を実施。	
<阪急バス>	
①リアル謎解きゲーム「大阪豊中謎解き～未完成のキャンバス～」の実施：R7/3/24～12/31	
②川西市域・猪名川町域を運行する路線でのダイヤ改正：R7/5/1	
③「夏バスわくわくキャンペーン」の実施：R7/7/19～8/31	
④「星のカービィ×阪急電車」ラッピングバスの運行・バス停の装飾・1日乗車券の発売：R7/8/22～R8/3/17	
⑤阪急バスの乗り方説明パンフレット「ノリセツ」製作・配布：R7/10	
⑥モビリティ人材育成事業の実施	
⑦緑台小学校 探求学習への参加：R7/9/4	
⑧利用促進施策についてのワークショップを開催：R7/11/16、11/29	
⑨地域公共交通や交通まちづくり等の知見に関する勉強会を開催：R7/9/25、10/20、11/28、12/19、R8/1/3	
⑩多田グリーンハイツ線・平野山下線にて無料デーを実施：R7/11/16、11/24、R8/1/25、2/8	
⑪多田グリーンハイツ地区「おさんぽマルシェ」への参加：R7/11/24	
⑫のせでん貸切イベントへの参加：R8/1/25	
⑬多田グリーンハイツ地区での「モビリティ・ロゲイニング」実施（大雪のため中止）：R8/2/8	

<能勢電鉄>

- ①「のせでんレールウェイフェスティバル 2025 春」の開催：R7/4/26
- ②「茜音・藍色彩と過ごすなつやすみ 2025 クイズ&スタンプラリー」の開催：R7/7/11～9/1
- ③「風鈴電車《音色彩る》」の運行：R7/7/20～8/29
- ④「星のカービィ×阪急電車」のせでん号の運行：R7/9/2～R8/3/17
- ⑤「星のカービィ×阪急電車」スタンプラリーポイント・フォトスポットの設置・1日乗車券の発売
：R7/9/2～11/24
- ⑥「QRコードを活用したデジタル乗車券サービス」の開始：R7/10/1～
- ⑦「のせでんレールウェイフェスティバル 2025 秋」：R7/11/1
- ⑧デジタル駅スタンプアプリ「エキタグ」の導入：R7/11/1～
- ⑨卒業列車“祝電(しゅくでん)”の運行：R8/2/20～R8/3/29

<阪急電鉄>

- ①「阪急沿線観光あるき」の実施：R7/4/1～12/31
- ②第16回「阪急ええはがきコンテスト」の実施：R7/6/6～8/29
- ③「星のカービィ×阪急電車」コラボレーション企画の実施：R7/8/22～R8/3/17
- ④「もみじだより（「多田神社」「満願寺」をご紹介）」の実施：R7/11/4～12/7
- ⑤「朝日・五私鉄リレーウォーク」の開催：R7/10/22
- ⑥「阪急×のせでん合同ハイキング①」の開催：R7/10/22
- ⑦「阪急×北急×のせでん スカイハイキング」の開催：R7/12/13
- ⑧「阪急×のせでん合同ハイキング②」の開催：R8/2/21

<JR 西日本>

- ①ひょうごアクセス 2day パスの発売 R7/4/11～10/30
- ②JR 西日本 QR2day パスの発売 R7/9/5～R9/3/30 ※R8 年度も継続実施
- ③tabiwa 関西エリア QR1day パスの発売 R7/10/2～R9/3/31 ※R8 年度も継続実施
- ④ひょうご観光本部×JR 西日本グループ「冬のごほうび旅キャンペーン」
交通系 MaaS で発売している対象の周遊きっぷ購入者が参加できるデジタルスタンプラリー
- ⑤ひょうご G0! デジタルミッション（冬のごほうびスタンプ!）の開催 R8/1/13～2/28

【今後の課題や取組内容】

<課題>

- ・市・事業者・地域が利用者を増やすための取組を継続的に実施することが課題である。

<取組>

- ・イベントでの無料乗車券の配布を継続して実施し、普段公共交通を利用しない方に公共交通を利用するきっかけを提供する。
- ・各交通事業者において、利用者増に向けた取組を継続して実施する。
- ・新たな利用促進策を事業者連絡会で検討する。

福祉施設・コミュニティ等と連携した情報発信

○

【実施内容】

- ・大和地区では、毎月大和自治会の広報誌（大和 News）でバスの利用者数を報告し、目標達成に向け利用を呼びか

けている。また牧の台会館ではバスの利用促進のため、のぼりや時刻表を設置している。

【今後の課題や取組内容】

<課題>

- ・必要な情報や対象者を把握し、発信していくことが課題である。

<取組>

- ・「地域の移動課題対策支援事業」を進めるなかで、地域住民と協力し地域内施設等での情報発信の強化に努める。

EV バスの導入等の推進

△

【実施内容】

- ・阪急バス(株)と現状を共有。

【今後の課題や取組内容】

<課題>

- ・安全面、費用面、環境面に配慮した取組を進めていくことが課題である。

<取組>

- ・引き続き阪急バス(株)と連携をとり、必要に応じて EV バス導入を支援する。

基本方針3 日常生活を支える地域内交通サービスの構築

地域住民による訪問型支えあい活動に対する支援（介護保険課）

○

【実施内容】

- ・地域住民が主体となり、実施している「訪問型支えあい活動」に対し、活動に要する経費の一部を補助することで活動の継続と発展につなげる「訪問型支えあい活動支援事業」を令和6年度に創設、令和7年度より車両を利用した外出支援を行う団体に対し、安全に配慮し地域の特性に応じた活動ができるよう、補助対象経費と補助額を拡充した。
- ・車両を利用した外出支援を実施する5地域（明峰、多田、緑台・陽明、けやき坂、東谷）の6団体に補助金を交付した。（けやき坂地区2団体）
- ・令和8年度も活動の立ち上げや継続を支援する。

【今後の課題や取組内容】

<課題>

- ・外出支援のニーズへの対応が課題である。

<取組>

- ・地域住民の主体的な外出に関する活動の継続と新規立ち上げへの支援を実施する。



川西市公共交通計画の 進捗状況報告について

基本方針に基づく施策の一覧について

【基本方針 1】誰もが移動しやすい公共交通サービスの整備

(※赤字は重点施策)

- ① **地域の移動課題対策支援事業** (基本方針 2・3 にも関連)
- ② **公共交通維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置** (基本方針 2 にも関連)
 - ・ 渋滞・違法駐車対策の推進 (基本方針 2 にも関連)
 - ・ タクシーの利用環境向上に向けた検討 (基本方針 3 にも関連)
 - ・ ユニバーサルデザインタクシーの導入 (基本方針 3 にも関連)
 - ・ 隣接自治体との連携推進 (基本方針 2 にも関連)
 - ・ 安全対策の推進

【基本方針 2】環境にやさしくまちの賑わい向上につながる公共交通の利用環境の整備

- ・ **モビリティ・マネジメント (MM) の充実** (基本方針 1 にも関連)
- ③ 公共交通利用者増に向けた取組の実施
 - ・ EVバスの導入等の推進
 - ・ 福祉施設・コミュニティ等と連携した情報発信

【基本方針 3】日常生活を支える地域内交通サービスの構築

- ④ **地域住民による訪問型支えあい活動に対する支援**

①地域の移動課題対策支援事業について

【基本方針 1】

誰もが移動しやすい公共交通サービスの整備

1. 現在の取組

○牧の台コミュニティ地区

- ・令和8年5月9日,10日に大和バス無料DAYを実施
(詳細は資料3参照)

○北陵コミュニティ地区

コミュニティ内の移動課題を明確化するために、今後、部会を立ち上げ、勉強会の開催を検討中
(部会のイメージは次項を参照)

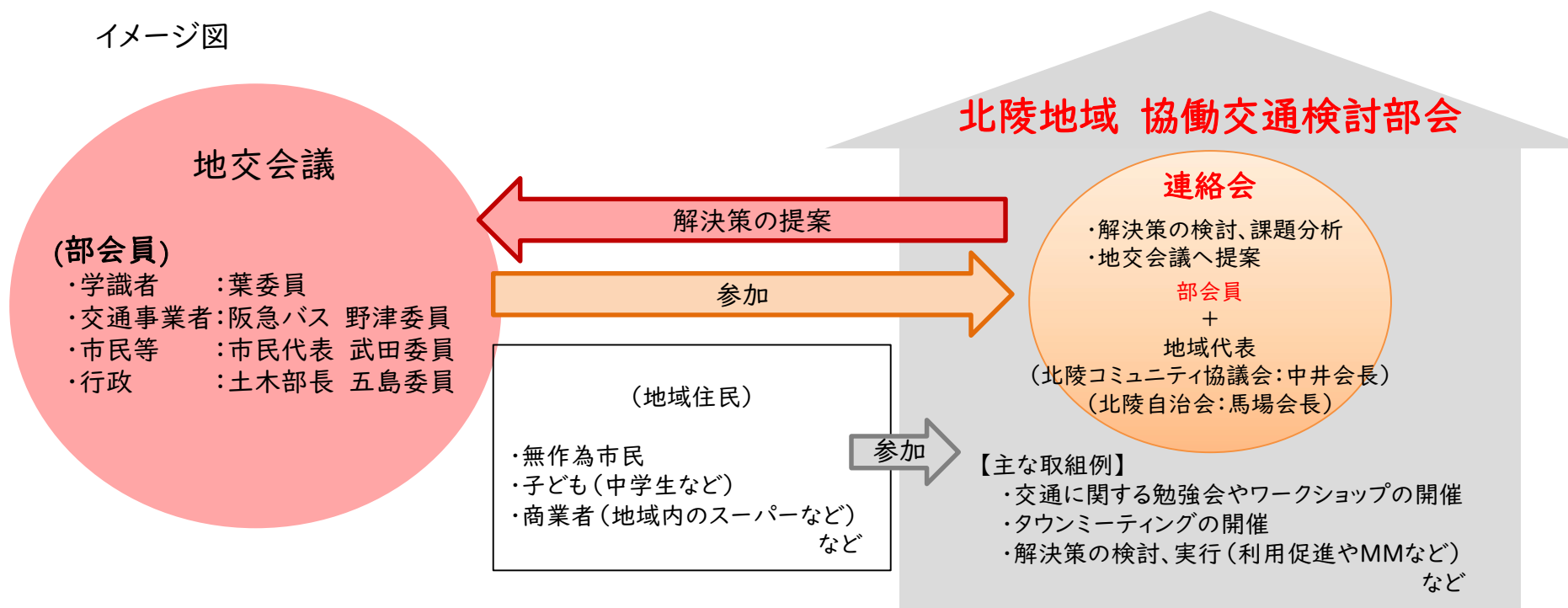


2. 今後の取組

今後も各地域ごとの移動課題の解決に向けて地元団体の主体的な取組を支援していくとともに、引き続き、移動課題の解決に取り組む新たな支援地区を募集していく。

○北陵コミュニティ地区の部会イメージ

イメージ図



②公共交通維持及び利便性向上に向けた 事業者連絡会の設置について

【基本方針1】
誰もが移動しやすい公共交通サービスの整備

1. 概要

<目的>

各交通事業者が共通して抱える課題について解決策を検討し、解決に向けて協力して対策を講じる。

<構成員>

学識経験者・市内各交通事業者・土木部交通政策課・その他事業者連絡会が特に必要と認める者

2. 令和8年度の開催状況

	日時	主な内容
第1回	令和8年5月25日	<利用促進> イベント無料乗車券、学校MM、教員MMなどについて <渋滞対策> 違法駐車対策（アステ前の実証実験結果について） <人材不足> 今後の取組（案）について <情報発信> 公共交通に関するポスター募集について

3. 今後の取組

引き続き、課題解決に向けて交通事業者と協力し対策を講じる。

③公共交通利用者増に向けた取組の実施

【基本方針2】
環境にやさしくまちの賑わい向上につながる
公共交通の利用環境の整備

1. 概要

＜目的＞

公共交通（能勢電鉄・阪急バス）の利用者増加と公共交通利用に関する市民意識の醸成

＜取組内容＞

市内イベントに公共交通で来場し、アンケートに回答して頂いた方へ無料乗車券を配布。

※アンケート結果は【参考資料1】を参照

2. 令和8年度の実施状況

日時：4月12日（日）9時45分～15時00分

場所：キセラ川西せせらぎ公園

配布枚数：阪急バス（287枚）※大人：243枚
子ども：44枚
能勢電鉄（300枚）※予定枚数全て配布

アンケート回答者数：318名



※お問い合わせ 川西市土木部 交通政策課 072-740-1180



3. 次回の配布イベントについて

令和8年秋頃に開催の『交通安全フェア2026』で無料乗車券を配布予定。

④地域住民による 訪問型支えあい活動に対する支援

【基本方針3】
日常生活を支える地域内交通サービスの構築

1. 概要

地域住民による外出支援を含む支えあい活動を行う団体に対して、運営継続と活性化に必要な支援を行う。

2. 地域の移動課題対策支援事業の 支援地区の取組状況

○緑台・陽明コミュニティ

「福祉的ボランティア輸送」である『お出かけ支援』を運行しており、更なる利便性向上を図るため、令和7年12月より右記の運行概要で実証実験として運行し、令和8年3月より本格運行を開始した。

現在の運行概要

運行主体	運営主体：緑台・陽明コミュニティ協議会 運行主体：多田グリーンハイツ自治会
対象者	・1人で外出するのが困難な介護予防要支援者等 ・生活支援を必要とする高齢者
車両	8人乗りワゴン（車両は自治会がリース）
運転手	ボランティア
料金	1回あたり100円 （実費の範囲内 ※ガソリン代・保険料・車両リース代）
利用方法	・バス路線上での乗降は不可・予約不要、定時定路線・片道利用可能 ・指定停留所で乗降

現在の運行概要

運行主体	東谷コミュニティ支えあい交通委員会（東谷コミュニティ協議会）
利用対象者	東谷コミュニティ地域内に居住している ・介護予防要支援者 ・日常生活で困りごとのある高齢者等 ・外出支援を必要とする住民の方々
車両	5人乗り乗用車（車両は自治会がリース）
運転手	ボランティア
料金	1回あたり200円～500円 ※距離に応じて変動
その他	・生活支援での外出支援（単なる輸送だけではない） ・事前予約制 ・運行ルート ※予約状況に応じて変動あり （基本ルート）黒川⇒一庫⇒下財町・山下町⇒笹部⇒山下駅

○東谷コミュニティ

「福祉的ボランティア輸送」である『乗りっこ』が令和7年10月より運行開始。令和8年4月からは、運行対象地区を広げ東畦野山手地区・東畦野地区・西畦野地区・鳴尾地区・山原地区・緑が丘地区・見野地区も運行。

④地域住民による

訪問型支えあい活動に対する支援

【基本方針3】

日常生活を支える地域内交通サービスの構築

3. その他地域の車両を利用した外出支援の取組状況

団体名	地区	方法	形態	支援範囲	現状
たのみ隊	明峰	・個別 ・自家用車	生活支援	中学校圏域	・個別の生活支援を伴う移動支援(800円/h) ・通いの場までの乗り合いでの移動支援を令和7年10月から開始予定(400円/人)
NPOじえねじえね	けやき坂	・個別 ・自家用車	生活支援	中学校圏域	・主に通院等の移動支援を行っている(1,100円/h～) ・代表者の体調不良により活動休止中
たすけ愛けやき (けやき坂地区福祉委員会)	けやき坂	・個別 ・自家用車	生活支援	中学校圏域	・令和7年7月末より個別の生活支援を伴う移動支援を開始 他の生活支援利用料と同額で実施(700円/h) ・通いの場への移動支援は、乗り合いで別料金で検討中(200円/人)、令和7年7月末より開始 ・公共交通バス停までの移動支援を開始
有償ボランティア愛 (多田地区福祉委員会)	多田	・個別 ・自家用車	生活支援	中学校圏域	・令和7年12月開始 ・ひとり1時間以内700円

地域の移動課題対策支援事業
(牧の台地域)

これまでの経緯について

▶ 前回会議（令和7年度第3回地域公共交通会議）までの経緯

- **令和7年5月15日** 【令和7年度第1回 地域公共交通会議（書面）】を開催

⇒ 牧の台コミュニティを支援地区に決定

- **令和7年6月3日** 【令和7年度第1回 牧の台地域協働交通検討部会連絡会】を開催

⇒ 会長の選任・部会設置の目的や進め方、目標数値などについて協議

- **令和7年7月15日** 【令和7年度第2回 牧の台地域協働交通検討部会連絡会】を開催

⇒ バス運行にかかる経費や目標数値、ワークショップなどについて協議

- **令和7年9月5日** 【ワークショップの開催】

⇒ 『大和バスの利用促進について』というテーマでワークショップを開催。バス利用者を維持・増加させるため、地域住民同士で意見交換を実施。

※ワークショップの様子



- **令和7年9月17日** 【令和7年度第3回 牧の台地域協働交通検討部会連絡会】を開催

⇒ ワークショップでの意見のとりまとめや、利用促進に向けた実施計画について協議

- **令和7年10月8日** 【令和7年度第2回 地域公共交通会議】を開催

⇒ バス運行にかかる目標数値の指標を『輸送人員』から『実利用者数』へ変更することについて協議し承認を得る。

これまでの経緯について

●令和7年12月19日

⇒令和7年12月議会で、平野山下線・大和団地線の前期運行期間（令和8年4月～令和11年3月）の3年間の運行にかかる補助金の補正予算案（債務負担行為）を上程し、議会の承認を得る。

●令和8年1月15日 【令和7年度第4回 牧の台地域協働交通検討部会連絡会】を開催

⇒12月議会で議会の承認を得た上で、令和11年度以降のバス運行方針（案）や、地域主体で実施する『実施計画』について協議を行った。

【主な意見】

(1) 令和11年度のバス運行方針（案）について

⇒部会は、バスの運行を継続するにはどんな取組が必要かということを議論するもの。

牧の台地域はこれまでの経緯もあり、運行ルールを地域公共交通会議の協議事項とすることは吝かではない。

⇒目標数値の達成が主な議論ではなく、将来の移動サービスについてを若い世代のためにも今から議論することが重要である。

(2) 牧の台コミュニティ協議会の実施計画書について

⇒事業計画については、「何を実施する」⇒それによって「何がどうなる」⇒「評価」（計画の再検討あるいは効果的対策の実施の検討）となる。

⇒実施計画には、「将来の移動サービスの検討」や「若年層を対象にしたワークショップの開催」を加える必要があるのではないか。本来は、目的があって、その目的のためにどのような取組をするのか、その結果(効果)を踏まえて次のステップは何かという流れになる。

これまでの経緯について

※市長タウンミーティングの様子

●令和8年2月23日 【市長のタウンミーティング】を開催

⇒令和11年4月以降の平野山下線・大和団地線の『運行方針（案）』について市長と地域住民の方々が意見交換を行った。45名の方が参加され、『持続可能な大和バスを運行するために』様々な意見交換を実施した。



●令和8年3月5日 【令和7年度第5回 牧の台地域協働交通検討部会連絡会】を開催

⇒タウンミーティング開催の報告や、令和11年4月以降の『運行方針（案）』と利用促進の『実施計画（案）』について協議し、承認を得る。

●令和8年3月24日 【令和7年度第3回 地域公共交通会議】を開催

⇒令和11年度以降の運行方針（案）について協議し、承認を得る。

【運行方針（案）】

- ・2年連続目標達成すれば令和11年度以降も現在のバス運行を継続する。
- ・2年連続目標未達成であれば、令和11年度以降のバス運行を見直す。

⇒牧の台コミュニティ協議会の実施計画(案)について協議し、承認を得る。

【報告】大和バス無料Dayの実施について

※イベントのチラシ

1. 実施概要

<日時>

令和8年5月9日（土）,10日（日）

<実施内容>

- ・ イベント当日の阪急バス 大和団地線のバスを終日無料化
(運行本数は、1日12便)
- ・ 対象者は限定せず、何回でも無料で利用可

2. 利用者数（前年同時期と比較）

	R7		R8			
	5/10(土)	5/11(日)	5/9(土)		5/10(日)	
			大人	子ども	大人	子ども
			277人	236人	252人	108人
合計	175人	59人	513人		360人	
2日間合計	234人 (R7.5月の1日平均利用者数(土休日)から算出)		873人 (未就学児含む)			



※9,10日ともにイベント盛況により、臨時バスが運行された

3. 今後の予定

- ・ イベント前後の利用者数を比較し、バス無料Dayによる効果を検証し、部会で報告
- ・ 検証結果を踏まえ、秋に実施するイベントでの取組内容を部会で検討



ポスター募集について

テーマ 『かわにしのミライへつなぐ公共交通』

- ・小学生を対象に公共交通（電車・バス・タクシー等）に関するポスターを書いてもらうことで、身近な公共交通の魅力を再発見してもらう。また、ご家族にもポスターを通じて興味を持ってもらい、公共交通の利用促進を図る。
- ・川西市の広報誌「milife（みらいふ）」で令和9年2月に特集を予定している公共交通に関する記事において、最優秀賞のポスターを掲載予定。

過去の特集記事（2021年12月号）

**広報
かわにし**

milife

かわにしの未来へつなぐ生活情報誌【みらいふ】

12 Public Relations Magazine in Kawasaki City
Dec. 2021 No.1392
<https://www.city.kawasaki.lg.jp/g/>

未来に残す。



今日は暑やのでバス乗るが

のせでん乗るとおっとするわ

え、バスと電車で乗ってめっちゃ減ってきてる？

涼しくてきて駅まで歩くのしんどいからバスがあるのと比べると

夕刻は15分ごとに電車くるから便利やわ

特集 公共交通を考える

暮らしのすぐそばにある公共交通。皆さんは、日頃利用していますか。実は、利用者が増えています。その理由には、環境問題への関心の高まりや、健康意識の高まりなどがあります。また、イベントなどに参加する際は、体温を測る、マスクを着用するなど感染防止にご協力ください。



公共交通を考える

持続可能な交通手段の仕組みづくりに向けて

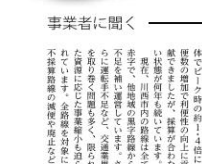
特集 公共交通を考える

問い合わせ 交通政策課 ☎072(740)1180



市内の交通網は、南北に走る有軌電車と、大船橋駅などを結ぶ阪急バスを中心に支えられていす。現在、2社をはじめとする市内の公共交通機関は、さまざまな課題に直面しています。公共交通は本能的にあるものでなく、みんなで守り維持していくもの。将来にわたすために、取り組みを進めている事業者と地域団体、読者に話を聞きます。

事業者に聞く



田中祥敬さん

阪急バス株式会社 代表取締役社長

「公共交通は、市民生活の基盤であり、社会の発展を支える重要な役割を果たしています。阪急バスは、大阪市内を中心に、大阪府内各地まで路線を伸ばし、多くの市民の生活を支えています。しかし、近年は人口減少や高齢化の進展により、利用者の減少や収益の悪化が懸念されています。私たちは、持続可能な公共交通を実現するために、様々な取り組みを行っています。例えば、高齢者や障害者の利用を支援するための施策や、環境に優しい車両の導入などです。今後も、市民のニーズに応じたサービスを提供し、公共交通の魅力を高めることを目指しています。」

公共交通の現状と課題

公共交通は、市民生活の基盤であり、社会の発展を支える重要な役割を果たしています。しかし、近年は人口減少や高齢化の進展により、利用者の減少や収益の悪化が懸念されています。私たちは、持続可能な公共交通を実現するために、様々な取り組みを行っています。例えば、高齢者や障害者の利用を支援するための施策や、環境に優しい車両の導入などです。今後も、市民のニーズに応じたサービスを提供し、公共交通の魅力を高めることを目指しています。

能勢電鉄

徹底的に経営状況が直視し
ダイヤの見直しも

能勢電鉄は、大阪市内を中心に、大阪府内各地まで路線を伸ばし、多くの市民の生活を支えています。しかし、近年は人口減少や高齢化の進展により、利用者の減少や収益の悪化が懸念されています。私たちは、持続可能な公共交通を実現するために、様々な取り組みを行っています。例えば、高齢者や障害者の利用を支援するための施策や、環境に優しい車両の導入などです。今後も、市民のニーズに応じたサービスを提供し、公共交通の魅力を高めることを目指しています。

東山仁さん

能勢電鉄株式会社 代表取締役社長

「公共交通は、市民生活の基盤であり、社会の発展を支える重要な役割を果たしています。能勢電鉄は、大阪市内を中心に、大阪府内各地まで路線を伸ばし、多くの市民の生活を支えています。しかし、近年は人口減少や高齢化の進展により、利用者の減少や収益の悪化が懸念されています。私たちは、持続可能な公共交通を実現するために、様々な取り組みを行っています。例えば、高齢者や障害者の利用を支援するための施策や、環境に優しい車両の導入などです。今後も、市民のニーズに応じたサービスを提供し、公共交通の魅力を高めることを目指しています。」

3 milife | 2021.12

2

スケジュール



◆テーマ

「かわにしのミライへつなぐ公共交通」

【応募期間】

10月中旬まで

【応募資格】

市内の小学生（市外の小学校に通う児童も対象）

【応募方法】

各学校に提出（市外の小学校に通う児童は交通政策課まで持参）

【入賞作品数】

- ・最優秀賞（1名）
- ・優秀賞（低学年・高学年それぞれ5名）
- ・交通事業者賞（低学年・高学年それぞれ5名）

合計21名

★入賞特典★

▶最優秀賞

- ・賞状、図書カード(5,000円相当)、ノベルティの贈呈
- ・広報誌2月号へ掲載
- ・市内の駅・施設等で掲示

▶優秀賞

- ・賞状、図書カード(2,000円相当)、ノベルティの贈呈

▶交通事業者賞

- ・賞状、ノベルティの贈呈

（協力）

JR西日本,阪急電鉄,能勢電鉄,阪急バス,兵庫県タクシー協会

施策の目的 ⇒ 川西市内を運行する公共交通（電車・バス）の利用者増加

無料乗車券を配布することで、公共交通の利用頻度が少ない又は利用したことがない方に公共交通の利用機会を提供し、『公共交通は便利で使いやすい』と体感してもらい、今後の移動手段の一つとして公共交通を選択・利用してもらう

≪実施概要≫

日時：4月12日（日）9時45分～15時00分

場所：キセラ川西せせらぎ公園

配布枚数

・阪急バス（287枚） ※大人：243枚
子ども：44枚

・能勢電鉄（300枚）※予定枚数全て配布

アンケート回答者数（318名）

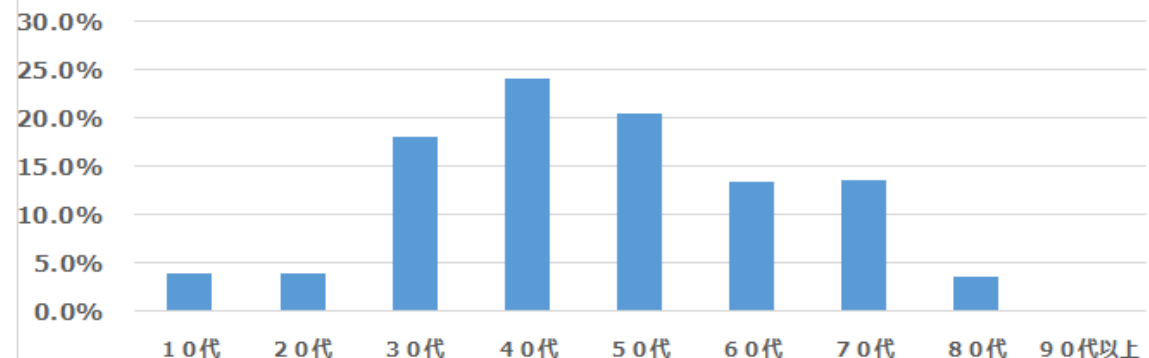
Q1.回答者の住所

川西市内	川西市外
78.6%	21.4%

Q2.イベント来場手段

電車	バス
58.6%	41.4%

年齢分布



Q3.年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
3.8%	3.8%	17.9%	23.9%	20.4%	13.2%	13.5%	3.5%	0.0%

Q4-1.電車の利用頻度

1週間に1回以上	1ヶ月に1～2回程度	2～3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	乗らない
65.1%	23.9%	7.3%	3.2%	0.5%

電車の利用頻度が少ない理由（1週間に1回以上を選択した人以外）

- ・車移動が多いため
- ・車の方が便利
- ・遠くへ行く機会が少ない
- ・電車賃が高いのでできるだけ出かけない
- ・最寄り駅が遠い

Q4-2.バスの利用頻度

1週間に1回以上	1ヶ月に1～2回程度	2～3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	乗らない
46.1%	31.2%	13.0%	7.8%	1.9%

バスの利用頻度が少ない理由（1週間に1回以上を選択した人以外）

- ・車を使うことが多い
- ・本数が少ない
- ・家の近くで買物ができるため
- ・仕事に車を使用するため
- ・運賃が高い
- ・電車での移動で完結するため
- ・子ども連れのため（ベビーカーありでの利用を躊躇うため）
- ・時間が前後するため

Q5.イベントに来場した理由 ※複数回答可

無料乗車券の配布があるから	知人にさそわれたから	通りがかり気になったから	イベントが楽しそうだったから
19.7%	12.6%	5.6%	62.1%

Q6.無料乗車券を配布することを何で知りましたか。 ※複数回答可

広報紙	HP	SNS	チラシ・ポスター	当日イベントに来て知った。
33.3%	8.5%	3.7%	18.2%	36.2%

Q7-1.電車の利便性

とても便利	便利	少し不便	不便
58.7%	39.0%	1.8%	0.5%

Q7-2.今後も電車を利用しようと思いますか。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない
65.1%	32.1%	2.8%	0.0%

※今後も電車を利用しようと
あまり思わない理由

- ・車の方が便利のため
- ・運賃が高いため

Q8-1.バスの利便性

とても便利	便利	少し不便	不便
41.6%	46.1%	11.7%	0.6%

Q8-2.今後もバスを利用しようと思いますか。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない
51.9%	45.5%	2.6%	0.0%

※今後もバスを利用しようと
あまり思わない理由

- ・料金が高いため
- ・遅いため

Q9.公共交通に関する意見や改善してほしい点

阪急バス

- ・本数を増やしてほしい
- ・深夜バスを増やしてほしい
- ・ベビーカーでの利用がしにくい
- ・料金が安い
- ・遅れのない定時運行をお願いしたい
- ・池田から川西までの便を復活させてほしい
- ・バス優先レーンをしっかり活用してほしい

能勢電鉄

- ・ホームドアを設置してほしい
- ・風鈴電車が良かった
- ・梅田方面の電車との接続時間が短い
- ・土日の回数券の復活を望みます
- ・終電を延ばしてほしい
- ・いつもきれいな電車に乗せてもらってありがたい
- ・乗り心地がいい

公共交通全体

- ・運賃を安くしてほしい
- ・維持してほしい
- ・バスと電車の接続を考慮したダイヤにしてほしい
- ・高齢者割引があればうれしい
- ・いつも快適でとても感謝している

【利用頻度別】

事前周知をし、
公共交通への移動手段の転換ができていますか？

無料乗車券の配布があるからイベントに来場した人の割合

Q4-1.電車の利用頻度

1週間に1回以上	1ヶ月に1～2回程度	2～3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	乗らない
142人	52人	16人	7人	1人
65.1%	23.9%	7.3%	3.2%	0.5%

↓内、無料乗車券の配布があるからイベントに来場した人

37人	17人	3人	1人	0人
26.1%	32.7%	18.8%	14.3%	0.0%

Q4-2.バスの利用頻度

1週間に1回以上	1ヶ月に1～2回程度	2～3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	乗らない
71人	48人	20人	12人	3人
46.1%	31.2%	13.0%	7.8%	1.9%

↓内、無料乗車券の配布があるからイベントに来場した人

21人	15人	4人	3人	0人
29.6%	31.3%	20.0%	25.0%	0.0%